

## 財務

財務状況は、学生生徒等納付金、寄附金、補助金等外部資金など主要な収入源の安定的な確保を前提に、教育・研究関連経費への重点的な配分と人件費、管理経費等の抑制により、健全な財政運営を行っている。特に、2005（平成 17）年度においては、大学創立 35 周年記念事業と相まって多額な寄附金を受け入れ、それらを第 3 号基本金あるいは特定目的引当特定資産として確保し、財政基盤の強化を図っている。また、予算配分については予算編成方針を徹底し、予算執行にあたっては予算執行に係る決裁金額基準にしたがい適正に運営されている。

外部資金等の獲得状況は、毎年度経常的に受け入れている多額な寄附金の他に、研究資金獲得のため 2002（平成 14）年、リエゾン・オフィスの設置を始めとして、教育・研究支援室の設置、科学研究費補助金への応募推進のためのガイダンスの開催等、積極的な施策を展開し実績を上げていることは評価できる。

財務関係比率は、管理経費比率、消費収支比率が「理工他複数学部を設置する私立大学」の平均と比較して若干下回っているが、その他の項目は概ね平均的レベルであり、総合的に見て健全な状況にある。また、2005（平成 17）年度の数値が特異な値となっているのは、創立 35 周年事業に伴う寄附金収入により帰属収入が通年平均の 2.6 倍となったためであり、財政上の問題はない。

監事および公認会計士（または監査法人）による監査は適切に行われており、監査報告書にも、学校法人の財産および業務に関する監査の状況が適切に示されている。